

編集後記

発行予定日からすこし遅れましたが4巻の最終号をお届けします。前号で予告させていただきましたようにこの号では、「顎の成長発育」と題した特集論文を掲載いたしました。咬合を育成する歯科医療を考えてゆくためと思ひ企画したのですが、これに心よく答えて下さった4名の執筆者の方々に対しては深く感謝いたします。

その上に、総説論文もいただきました。著者のご希望もあって本誌では、はじめてのカラー頁印刷を試みてみました。印刷費がかさむのが難点ですが、組織像が明確になるのが何よりよいことです。今後必要最少限にとりあげてゆきたいものです。

さて、本号のトピックス、「B型肝炎を知る」は、如何がでしょうか。最近、本学歯学部附属病院でも関心が高まってきた問題ですので、急ぎ編集委員会として企画をだしたものです。大へんにお忙しい中を私たちの望みを適えて、貴重なお時間をさいて下さった本学医学部の川名林治、伊藤忠一、佐藤俊一の各先生方、司会の労を下された歯学部の金子克先生、本当に有難うございました。本学ならではできないことのことと、このご協力に感謝いたします。この機会に、会員各位もいたずらに騒ぐことなく正しい知識を

身につけて歯科医療に従事してゆきましょう。

すこし前向きな内容の編集ものが多かったですが、ご投稿の原著論文2編、症例報告1編を加えて、盛りたくさんな号となりました。4巻のしめくり号としてよかったと思っています。次号からは5巻となって巻数も変わりますし、私たち編集委員会もその1号誌を発行した上で、新しいメンバーと交代をいたすこととなります。別掲のような投稿締切日ですので会員の皆様方、どしどしご投稿をいただければ幸いです。できる限りこれらの論文で飾りたいと思います。

(54.11.10. 石川 富士郎)

例年になく暖かい日が続きましたが、盛岡にも初雪がみられ(11月14日)、急に冬の中に突入した感じがします。国内では総選挙が終りそのあとがごたごたしているようですが、国外では韓国大統領の暗殺、イラン石油をめぐる暗躍がみられ、20世紀後半の平和に陰りがみられるような気がします。

しかしながら岩手医大内では積年の願ひであった大学院歯学研究科設立の話題がトップを占めるようになってきました。一日も早い完成を期待したいものです。
(名和 橙黄雄)

次号誌第4巻3号について

投稿締切 昭和55年1月15日

発行予定日 昭和55年3月15日

原著、症例報告、トピックスなど多数ご投稿を下さい。(本号誌229頁に投稿の手引きが掲載されています)

掲載予定の総説論文

- (1) 院内感染の発生要因とその対策 川名林治(本学医学部細菌学講座)
- (2) 歯科材料の疲労について 亀田務(本学歯学部歯科理工学講座)

岩手医科大学歯学会編集委員会